

フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	新潟県
-------	-----

学校の概要

学校名	村上市立村上南小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	2	20	28
児童数	82	86	99	85	88	81	5	526	

実践研究の概要

1. 主題（テーマ）

自ら学び、対象へ深くかかわろうとする児童の育成
～コミュニケーション能力の育成を目指して～

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

1 学年国語（グループ学習 ペアで活動させることで、自分の考えを相手に伝えたり、自分の考えを見直したりして、基礎・基本を定着させることに有効に働くから。）

算数（グループ学習 加減計算でペアや小グループでカード遊びを通して計算の習熟を図るため。）

2 学年国語（グループ学習 小グループで相互批評させながら学習を進めることで、主述のはっきりした文章を書かせるため。）

算数（TT 単元末に補充的な学習 [MT] と発展的な学習 [ST] の2コースを設け、理解度に応じた学習を進めるため。）

3 学年国語（少人数、課題選択学習 題材別コースを設けることで、児童の興味・関心に応じた学習ができるようにするため。）

算数（少人数、課題選択学習 単元末に補充的な学習と発展的な学習の4コース設け、理解度に応じた学習を進めるため。）

4 学年国語（課題選択学習 課題別コースを設けることで、児童の興味・関心に応じた学習ができるようにするため。）

5 学年国語（少人数、課題選択学習 テーマ別コースを設けることで、児童の興味・関心に応じた学習ができるようにするため。）

算数（少人数、習熟度別指導 理解度に差が生じやすいことと過去2年間の実践実績があるため。）

6 学年国語（TT 読み取りや調べる内容が多岐にわたる学習場面で個人差が大きく表れるため。）

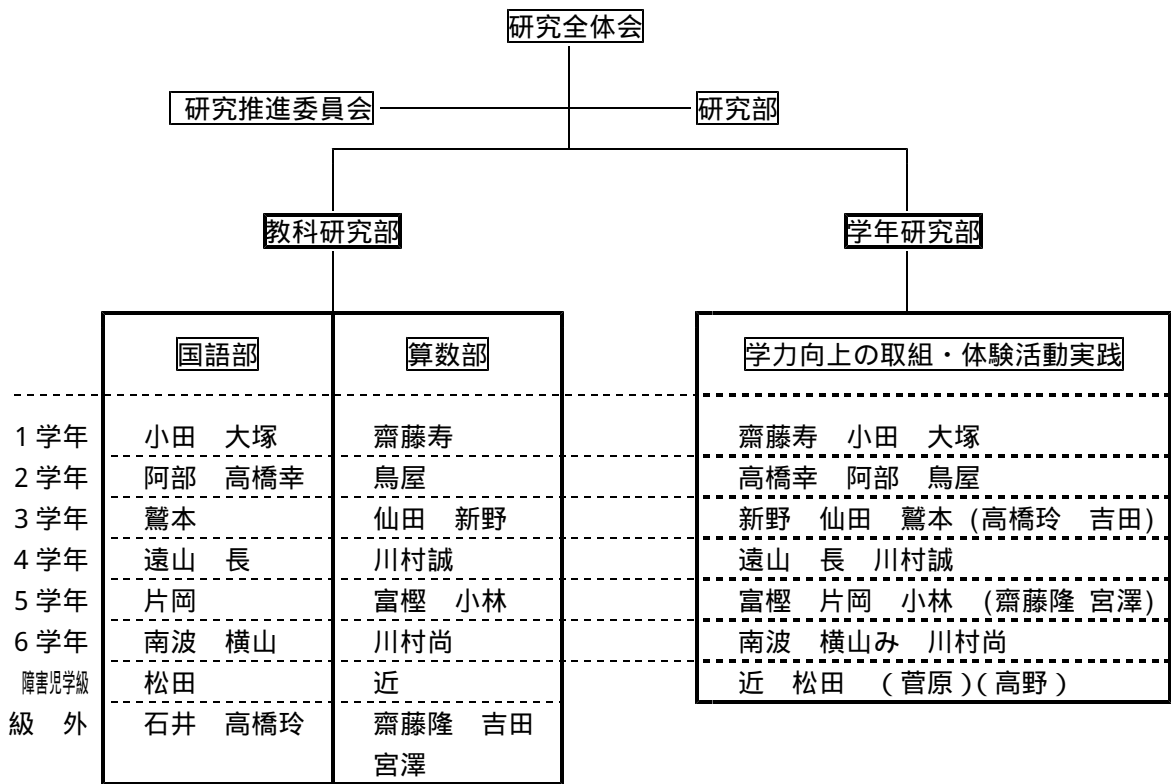
算数（単元末に補充的な学習と発展的な学習の2コースを設け、理解度に応じた学習を進めるため。）

(2)年次計画

平成14年度	<p>テーマ 自ら学び、対象へ深くかかわろうとする児童の育成 ～コミュニケーション能力の育成を目指して～</p> <p>研究内容 学力実態を把握し、分析と考察を生かし、問題点と課題を明確にする。 「個に応じた指導」により「コミュニケーション能力」を高める指導を工夫する。 基礎学力の定着を図るための少人数指導やコース学習の在り方を工夫する。 村上第一中学校との連携を図る。</p> <p>研究方法 ・ 国語、算数、生活・総合を研究教科とし、授業研究を実施する。 ・ 指導力向上を目的とした講演会等を実施する。</p>
平成15年度	<p>テーマ 自ら学び、対象へ深くかかわろうとする児童の育成 ～コミュニケーション能力の育成を目指して～</p> <p>研究内容 学力実態を分析し考察するとともに、発展的な学習内容を單元ごとに洗い出す。 「個に応じた指導」により「コミュニケーション能力」を高める指導を工夫する。 基礎学力の定着を図るための少人数指導やコース学習、教科担任制の在り方を工夫する。 村上第一中学校との連携を図る。</p> <p>研究方法 ・ 国語、算数、生活・総合を研究教科とし、授業研究を実施する。 ・ 近隣地域への「還元・普及」の効果的な方法を検討する。</p>
平成16年度	<p>テーマ 自ら学び、対象へ深くかかわろうとする児童の育成 ～コミュニケーション能力の育成を目指して～</p> <p>研究内容 学力実態を的確にとらえ、継続的に全校で取り組むべき学力を明確にする。 自分の思いを伝えたり相手を説得したりするコミュニケーション能力を高める工夫をする。 基礎学力の定着及び学力向上に結びつく授業改善を図る。 ・ 少人数指導 ・ コンピュータを活用した指導 ・ 教科担任制 ・ 隣接学年を解体した学習 村上第一中学校と連携し、算数科・数学科における重点単元を設け、共に授業実践を行う。</p> <p>研究方法 ・ 国語、算数を研究教科とし、授業研究を実施する。</p>

(3) 研究推進体制

2 部会「国語部」「算数部」と学年部による研修をスパイラルに行う。
 2 部会は、主に学力・学習意欲に関する実態把握や指導案検討等を行う。学年部は、実践及び学力向上の具体的な取組を行う。



・平成 1 5 年度の研究の成果及び今後の課題

1 研究の成果

- 1 4 年度末に完成させた「評価基準」をもとに、身に付けさせたい基礎・基本を確実に定着できるよう取り組んだ。昨年度 N R T で数値が全国比より下がっていた算数科の「数と計算」領域の「表現・処理」では、各学年平均 8 9 点(市販の標準テスト)と高い数値を示した。
- コミュニケーション能力を身に付けさせるために、1 5 のコミュニケーションスキルを設定し、学習場面やその他の教育活動の場で、それらのスキルを生かしたり高めたりする手だてを講じてきた。その結果、これまで以上に自分の思いを積極的に表現する姿が見られるようになってきた。
- 算数科では、発展的な学習内容の開発に取り組み、5 , 6 年では、ほぼ全単元で発展的な内容を取り入れた実践を行った結果、学習意欲の高まりが見られた。
- 3 , 5 年生の国語・算数で少人数指導や T T を積極的に取り入れた。児童の 9 割以上が好意的に受け止め、学習意欲の高まりが見られた。
- 5 年生で「理科、社会」、6 年生で「国語、算数」の教科担任制を導入し取り組んだ。アンケート結果では、ほぼ 10 割の児童が好意的に受け止め、情意面・認知面ともに高い数値を示した。

2 今後の課題

- 1 当校で作成した「評価基準」及び算数科における発展的な学習内容、効果的な少人数指導の在り方等を近隣地域校へ普及・還元する具体的な方法を明らかにしていく。

- 2 村上第一中学校と、主に算数科・数学科で重点単元を設けることにより、行動連携をより具体化していく。

・学力等把握のための学校としての取組

- ・各学年による定期テストの実施・・・全学年共に月1回程度で「言語事項についてのテスト」実施
1, 2, 3, 4, 6年は、週1回、漢字・計算テスト実施
2, 5年は、月1回、漢字・計算テスト実施
- ・全学年による定期テスト(NRT)の実施・・・年1回(2月)

・フロンティアスクールとしての研究成果の普及について

- 1 学力向上フロンティア事業中間発表会(1回目)の開催 6月27日

(1)内容

- ・国語 5年「読書の楽しさを伝え合おう」 少人数指導による課題選択学習
- 算数 2年「100より大きい数をしらべよう」 TTによる課題選択学習
- 3年「見やすく整理しよう」 少人数指導による課題選択学習

以上3つの授業公開

(2)参加対象

県内フロンティアスクールの職員 郡市内小中学校職員 保護者

(3)参加者

87名

- 2 学力向上フロンティア事業第1回村上・岩船地域学力向上推進協議会 7月18日

(1)内容

- ・学力向上フロンティア事業の内容説明及び研究概要の説明

(2)参加対象

フロンティアスクールの校長、関係職員 郡市町村小・中学校校長代表 地域担当指導主事
村上市教育委員会指導主事 保護者

(3)参加者

32名

- 3 学力向上フロンティア事業中間発表会(2回目)の開催 11月14日

(1)内容

- ・国語 3年「せつ明書をつくろう」 少人数指導による課題選択学習
6年「外来語、物知り博士になろう」 TT
- 算数 5年「分数と小数」 少人数指導による習熟度別指導
6年「比例」 発展的な学習内容の指導 以上4つの授業公開

(2)参加対象

県内フロンティアスクールの職員 郡市内小中学校職員 保護者

(3)参加者

82名

4 他校研究会へパネリストとして参加 11月28日

(1)内容

- ・ 当校フロンティアティーチャー齋藤が新潟市立大野小学校・新潟市立黒崎中学校の中間発表会(同時開催)でパネリストとして参加。

5 拡大中学校区訪問研究集会での授業公開 1月29日

(1)内容

- ・ 国語 1年「どうぶつクイズ大会をしよう」 課題選択学習
- 算数 5年「変わり方を調べよう」 学級TTや少人数指導による習熟度別指導・課題選択学習を組み合わせた指導

(2)参加対象

村上市内小中学校職員

(3)参加者

82名

6 HPの開設

平成15年4月に開設

- ・ 学校行事、学年の取組
- ・ やる気!元気!総合的な学習支援事業
- ・ 学力向上フロンティア事業 等について公開中

アドレス <http://www.iwafune.ne.jp/~sinayaka/>

7 16年度研究会予定

(1)日時 7月2日(金)

(2)内容

- ・ 全学年授業公開

【新規校・継続校】 14年度からの継続校

【学校規模】 19～24学級

【指導体制】 少人数指導 TTによる指導

一部教科担任制

【研究教科】 国語 算数

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有